

文化や宗教観の違いを感じて!

●富田さんのコンサートを今秋、春日部で・・・!

昨日は、夕方から声楽家の富田千種さん(ウィーン在住、浦高19回卒)と春日部市内でコンサートのできる会場を巡りました。

最初に訪れたのは埼玉県立春日部高校です。当初は今秋に「中高生のためのクラシック・コンサート」(春日部地区浦高会主催)を開催する予定で詰めて



いたのですが、会場のセンチニアホール【写真①:ホール外観】が8月から来年2月頃まで耐震改修(天井吊物落下防止等)の工事に入るため、今秋はあ

きらめて来年初夏の開催で日程調整させていただきました。高校の行事などと調整すると5月末か、6月中旬の開催予定になりそうです。先日からご対応いただいている内藤史郎教頭先生は、寄寓にも中学バスケット班の2学年後輩だということが先日判明しました。何度かお目にかかっていたのですが、お互いにそんなこととは知りませんでした。



【写真②:ホール内で音響を確かめる富田さん】

次に訪れたのが春日部福音自由協会丘の上記念会堂の礼拝堂です。山田豊牧師さんご夫妻に迎えられて



礼拝堂を見ていただきました。ここで、音響を確認されていた富田さんが突然「アヴェ・マリア」を原語(ラテン語?)で独唱し

てくださいました【写真③:礼拝堂内】。

* *

♪Ave Maria, gratia plena,
 Dominus tecum,
 benedicta tu in mulieribus,
 et benedictus fructus ventris tui Jesus.
 Sancta Maria mater Dei,
 ora pro nobis peccatoribus,
 nunc, et in hora mortis nostrae.
 Amen. ♪

★口語和訳(聖母マリアへの祈り)★

♪アヴェ、マリア、恵みに満ちた方、
 主はあなたとともにおられます。
 あなたは女のうちに祝福され、
 ご胎内の御子イエスも祝福されています。
 神の母聖マリア、わたしたち罪びとのために、
 今も、死を迎える時も、お祈りください。
 アーメン。♪

* *

礼拝堂で聞く「アヴェ・マリア」は最高でした。その後、山田先生ご夫妻と、この礼拝堂を会場としてコンサートができないかをご相談させていただき、10月中旬に備え付けのパイプオルガンとギターなどを伴奏として富田さんに歌っていただけることになりました。お茶と笹団子をいただきながら、しばしの音楽談義は楽しく、門外漢の私にとってもとても楽しい時間でした。

先日のコンサートでは、歌の合間に曲の情景などの説明が欲しかったという私に、富田さんから「これまでのコンサートでは入れていたのですけれど、今回は演目が多くカットしてしまいました。今回はその代わりにパンフレットに情景と歌詞の訳を入れたのですが、ほんのひと言、私が話すだけで皆さんのイメージが膨らむのでしょうか。」とのこと、春日部でのコンサートでは入れていただけるようです。それと、「聞いたことのある調べの歌を原語で歌っていただけると良いですね。」とのリクエストも・・・。

礼拝堂での音楽は、歌曲があうとのことでした。もともとシューベルトの歌曲などは、室内で楽しむようなもので、その調べや言葉を楽しむそうです。一方のオペラは、大観衆に訴えていくような大きな声量が求められるそうです。確かに、先日のコンサートでも第一部は歌曲、第二部はオペラと歌い方が違っていましたね。そして、富田さんは「歌い手は最後の言葉でピークになるように歌うことが大切なのです」と恩師に教えられ、ご自身でもそう努力しているとおっしゃいます。学生時代、体操部で鍛えられた心と身体全体で歌いきると・・・。

音楽の話からさまざまな話題になり、「日本人と西欧人の違い」になりました。来週、富田さんは母校の「麗和セミナー」でその辺りを話されるそうです。キリスト教文化圏では、他人の目はそれほど意識しないそうです。それは、自分の行動の全てを神様が見ているという意識からだそうです。例えば、交通機関に改札がなくても行き先までの切符を誰もがしっかりと買う、それは神様が見ているからだそうです。また、自分の主張の正しさを言い張り、周囲と喧嘩してでも主張を通すことも西欧人の特徴のようですが、それも自分の考えを神様が信じてくださっているという考えだと伺い、なるほどと思いました。